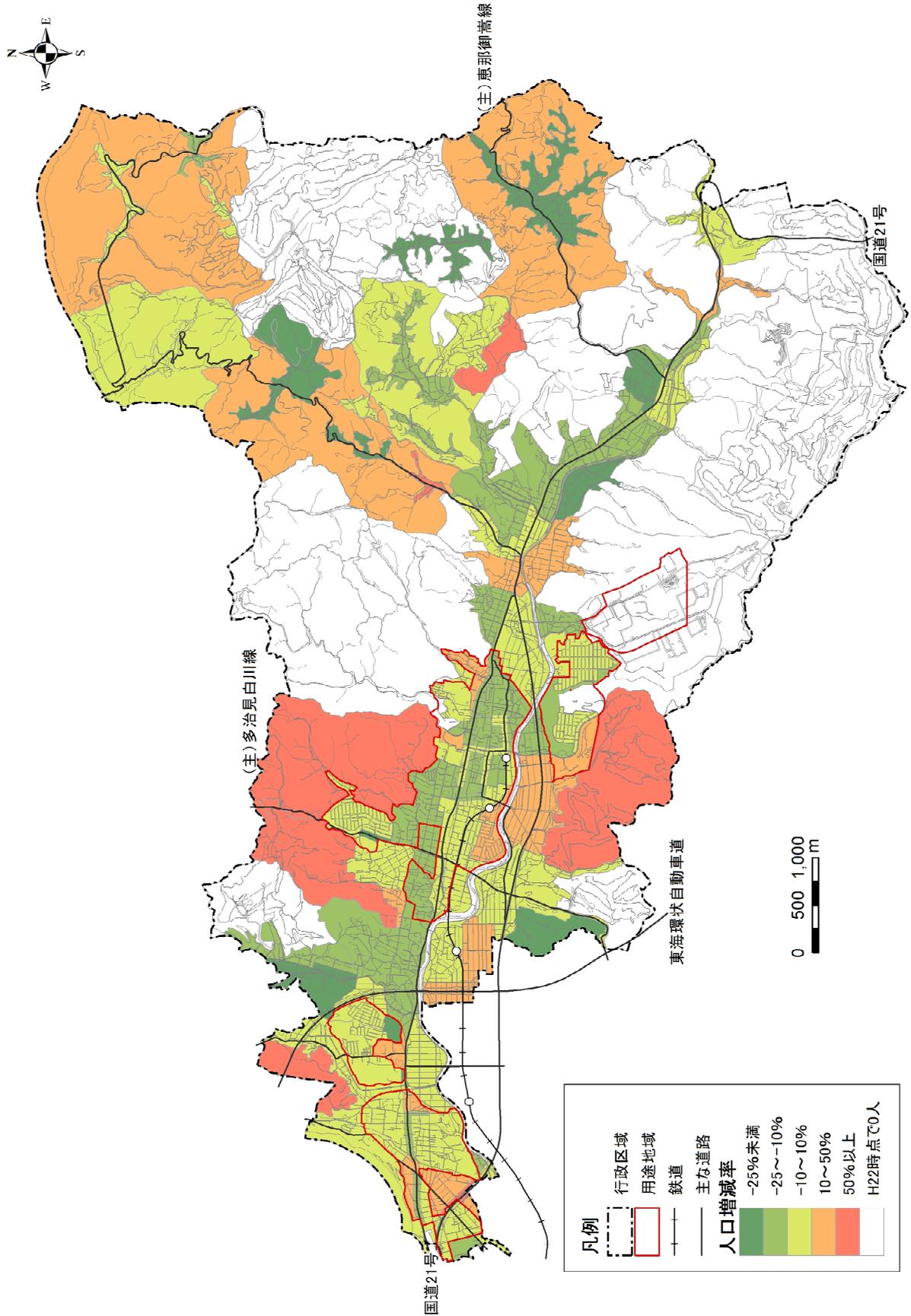


図 人口増減率 (2010 (平成22) 年～2015 (平成27) 年)



資料：国勢調査、都市計画基礎調査

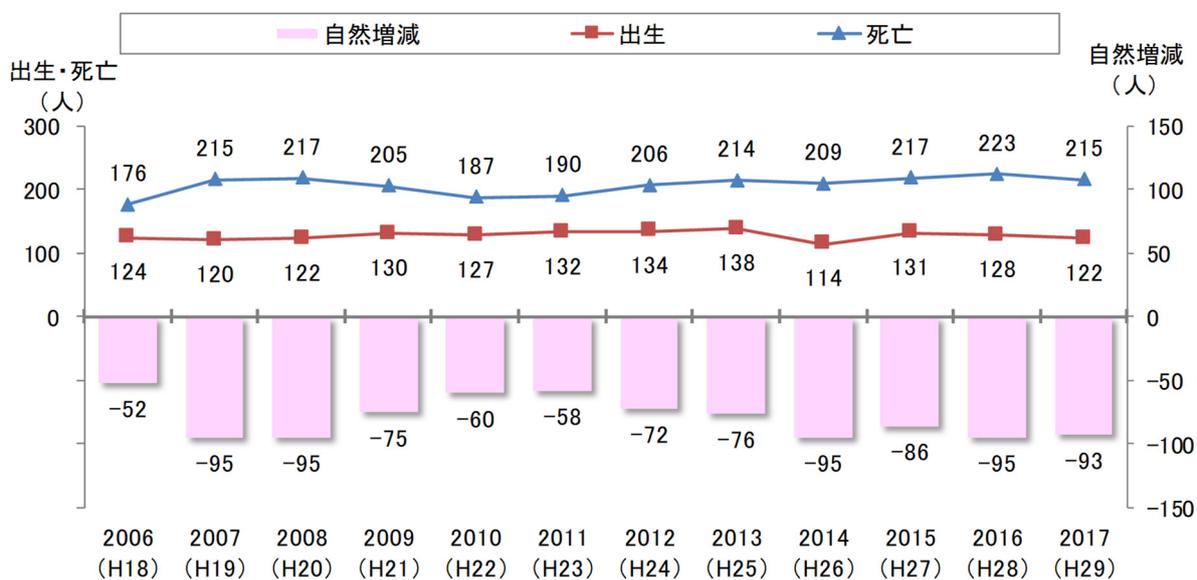
(2) 人口動態

人口動態をみると、自然増減は2006（平成18）年以降、自然減少の状態が続いています。その内訳をみると、死亡数が増加傾向にある一方で出生数はほぼ横ばいであり、自然減少の傾向が強くなっています。

社会増減は2012（平成24）年の減少数ピーク以降、社会減少の傾向が弱まってきており、2015（平成27）年には一度社会増加に転じています。

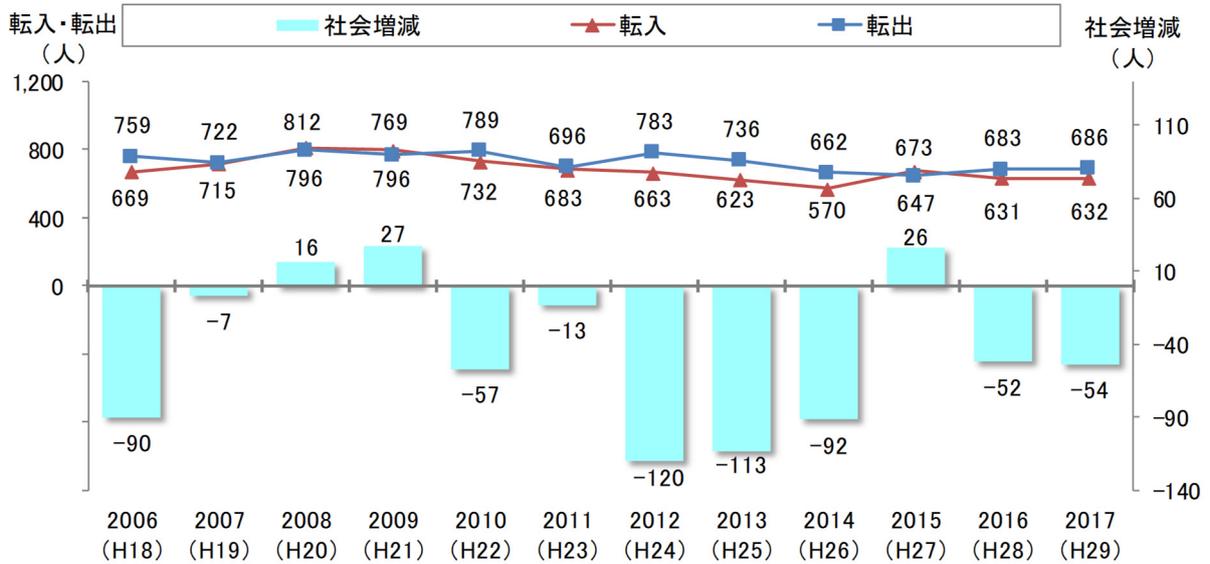
2017（平成29）年の社会増減の要因をみると、特に「結婚・離婚・縁組」、「学業上」、「職業上」での転出超過、「住宅事情」での転入超過がみられます。

図 自然増減の推移



資料：岐阜県人口動態調査

図 社会増減の推移



資料：岐阜県人口動態調査

図 要因別社会増減の推移 (2017 (平成29) 年)

要因	転入(人)	転出(人)	転入－転出(人)	状況
職業上	194	218	-24	転出超過
学業上	4	29	-25	転出超過
結婚・離婚・縁組	97	137	-40	転出超過
生活環境の利便性	78	65	13	転入超過
自然環境上	3	1	2	転入超過
交通の利便性	1	5	-4	転出超過
住宅事情	142	108	34	転入超過
その他	17	56	-39	—
不詳	96	67	29	—
合計	632	686	-54	転出超過

資料：岐阜県人口動態調査

(3) 通勤・通学流動

2015（平成27）年の通勤・通学流動は、流入5,013人に対して流出6,309人となっており、1,296人の流出超過となっています。また、自町内就業率は37.6%（通勤・通学者10,116人のうち、3,807人）で、半数以上の住民が町外で就業しています。

2005（平成17）年から2015（平成27）年にかけての変化をみると、流出超過の傾向は弱まっていますが、自町内就業率は横ばいです。

また、通勤・通学流動の流入元は、可児市、美濃加茂市といった周辺市町が多く、流出先は、周辺市町以外に多治見市や名古屋市も多くなっています。

図 通勤・通学流動（流入）

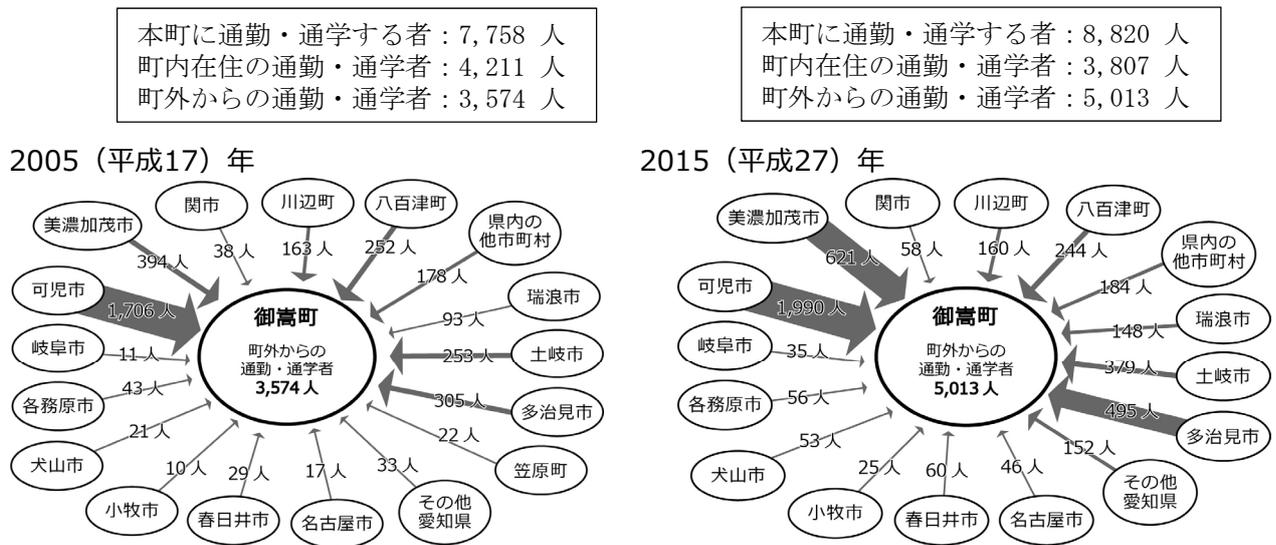
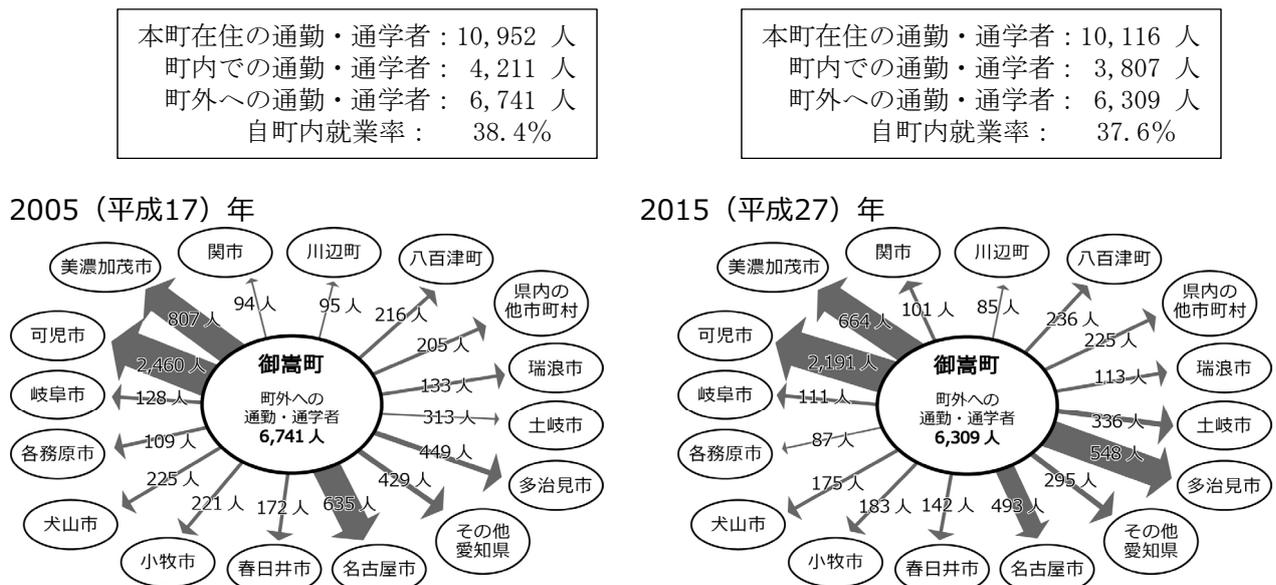


図 通勤・通学流動（流出）



※2005（平成17）年・2015（平成27）年の流出、流入のいずれかが100人以上の流動を图示

資料：国勢調査

(4) 昼夜間比率

昼夜間人口比率は0.93と周辺市町のなかでは平均的（県内比）ですが、自町内就業率は周辺市町のなかでは低い状況にあります。

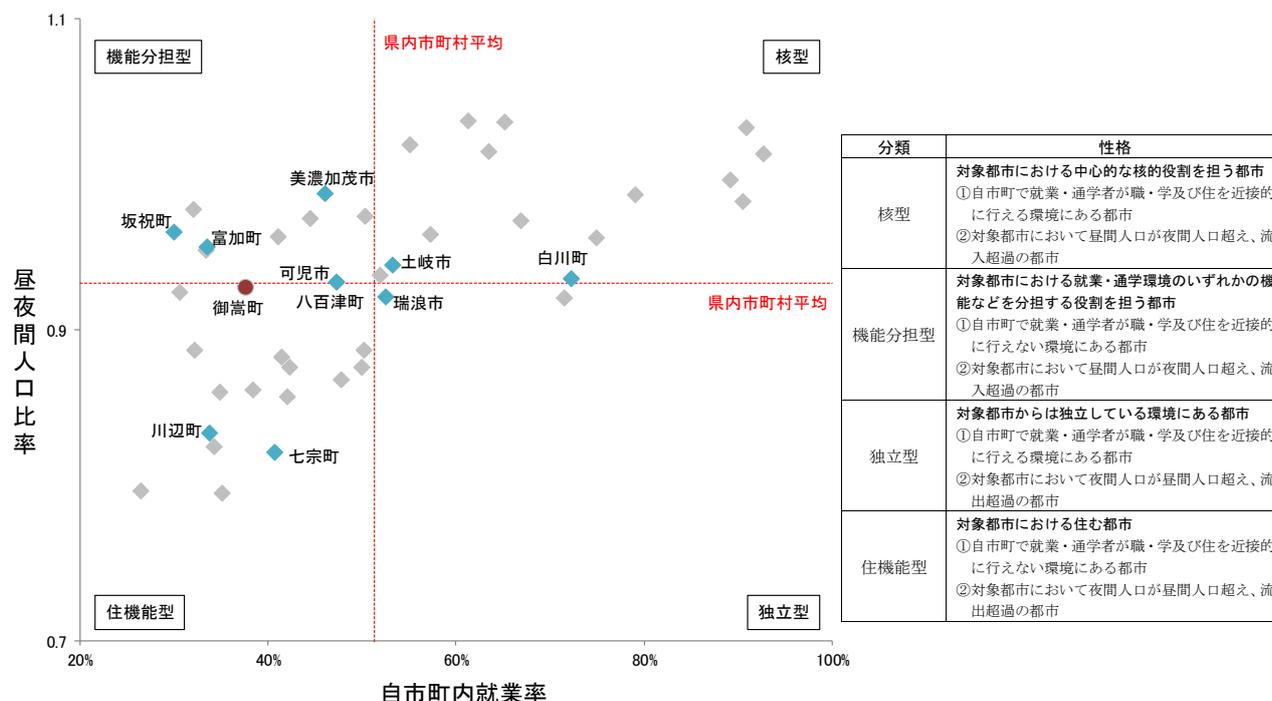
また、昼夜間人口比率と自町内就業率から本町のタイプを判定すると、住機能型に分類されます。周辺市町多くが機能分担型と住機能型に分類されています。

図 昼夜間人口比率、自市町内就業率（2015（平成27）年）

		夜間人口(人)		15歳以上通勤・通学者数(人)		昼間人口(人)	昼夜間人口比率
				自市町内で通勤・通学			
				人口(人)	自市町内就業率(%)		
周辺市町	御嵩町	18,111	10,116	3,807	37.6%	16,794	0.93
	瑞浪市	38,730	21,468	11,269	52.5%	35,681	0.92
	美濃加茂市	55,384	30,955	14,264	46.1%	54,682	0.99
	土岐市	57,827	32,127	17,129	53.3%	54,434	0.94
	可児市	98,695	53,453	25,299	47.3%	91,820	0.93
	坂祝町	8,202	4,710	1,414	30.0%	7,895	0.96
	富加町	5,564	3,219	1,078	33.5%	5,291	0.95
	川辺町	10,197	5,676	1,922	33.9%	8,501	0.83
	七宗町	3,876	1,985	809	40.8%	3,182	0.82
	八百津町	11,027	5,802	2,747	47.3%	10,257	0.93
白川町	8,392	4,513	3,263	72.3%	7,827	0.93	
県内市町村平均		—	—	—	51.3%	—	0.93

資料：国勢調査

図 岐阜県内の市町村のタイプ（2015（平成27）年）



資料：国勢調査